

音楽でつなぐ 次の世代へのバトン

恩師に導かれ 紡いできた縁

4歳からピアノを始め、10歳でギターや作詞作曲にも挑戦。さらに音楽性を高めたいと渡米してバークリー音楽大学で学び、帰国後はシンガーソングライターとしての活動に加え、作詞・作曲、脚本など幅広く活躍する、東京都在住の平島慎吾さんにお話を伺いました。



ミュージカル「クロノポスト」作曲・音楽監督

ひら しま しん ご
平島 慎吾さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.227

ました。

常陸大宮市で生まれ育った平島さん。4歳の頃、母親の勧めでヤマハ音楽院に通い、ピアノを習い始めました。「音を聴いたり奏でたりしながら、自然とクラシックに親しんでいました。きっかけをつくってくれた母に感謝しています」と振り返ります。10歳になるとギターを独学で始め、作詞作曲にも挑戦。中学生でバンドを組み、高校1年生の頃にはCDデビュー。平日は水戸の高校へ通い、週末はライブやレコーディングのため東京へ。高校卒業後はバンドを解散し、ソロとして活動を続けました。さらに音楽性を高めたいと渡米し、バークリー音楽大学へ進学。ジャズを中心に、楽譜に頼らず音を感じ、仲間とつくり上げる音楽を学び

みの〜れとの縁をつないだのは、幼い頃からお世話になっていた恩師の豊田里実先生でした。帰国後「観に来て」と声をかけられ、みの〜れへ。作品を観た後「慎ちゃん、ちょっとやってくれない」と頼まれ、「Twinkle」と音楽と公演の生演奏を担当しました。

「最初は『市民ミュージカル』というイメージで観に行ったんですが、純粋に感動したんです」。出演者の多くは地域の住民。それでも舞台に向き合う姿勢は真剣で、その熱量に心を動かされたといいます。初めて関わった公演では、バークリー音楽大学時代の仲間も演奏に加わり、舞台上の出演者と一緒に作品をつくる喜びや達成感を味わいました。

「出演する皆さんがっかりさせたくない。感動しても

今年10月公演「クロノポスト」拝啓どこかのだれかさま〜では、人とのつながりや命を次へつないでいく思いをテーマソングに込めました。「今では、自分が得た感動や喜びを次の世代へどう渡していくかを考えるようになりました」。子どもたちに音楽を教える時にも大切にしているその思いは、今回の作品のテーマとも重なります。音楽で受け取ったものを、また誰かへ手渡していく。平島さんの音楽は、みの〜れの舞台を通して、新しい世代へとつながっています。

(藤田佐知子)